市民セミナリヨ 2026⑤

井深八重のハンセン病患者への献身的実践

「人権」と「多様性」が問われる今だからこそ――
ハンセン病隔離の時代に、命と尊厳に向き合い続けた看護師・井深八重の足跡をたどる。



神山福生病院

日時：2026 年 9 月 5 日(土)
開場 13:00　開演 13:30　終演 15:00
会場：浦上キリシタン資料館コミュニティースペース



近年、感染症に対する社会の分断や偏見、人権のあり方が改めて問われています。かつて絶対隔離政策のもと、強い偏見と差別に晒されていたハンセン病患者たち。その最前線であった御殿場・神山復生病院において、自らも病の誤診断を受けながらも生涯を彼らのケアと尊厳の回復に捧げたのが井深八重です。

「個の尊厳」や「他者への共感」が揺らぐ現代において、彼女の揺るぎない献身と実践は何を教えてくれるのか。70 年にわたり彼女を支えたのは何だったのか。時代を超えて響くその生き様を、津田淳子氏とともに紐解きます。

●井深八重(いぶか やえ)：大正 7 年、井深八重は県立長崎高等女学校の英語教師として 21 歳で赴任。2年目の春、癩病(ハンセン病)と誤診・隔離され、91 歳で天に召されるまで神山福生病院で病者に寄り添う生涯を選んだ。遠藤周作「わたしが・棄てた・女」のモデルとなった。

講師：津田淳子氏



1952 年.長与町高田郷生まれ。東京教育大学体育学部卒。県立女子短大体育科助手・長崎北陽台高・奈留高・諫早特別支援学校虹の原特別支援学校・鶴南特別支援学校時津分校・長崎純心大学大学院人間文化修了

◆主催：NPO 法人アジェンダ NOVA ながさき

〒852-8116 長崎市平和町 11-19　グロリアヒルズ 1F
◆資料代：500 円　◆定員：40 名　◆申し込み：浦上キリシタン資料館へ電話・FAX・メールでご予約ください。
tel & fax：095-807-5646　urakamicm@mxa.cncm.ne.jp
◆問い合わせ：アジェンダ 林田　090-7923-7435　linden@ae.wakwak.com